

「合意形成学」セミナー各コース・クラスの番号、受講クラスとセッションの日程、受講料、および、シラバス

概要：

曜日・時間：水曜日・18:30-19:30、19:40-20:40（2時間）

実施形態：オンライン（Zoom）による実施（パソコン、アプリ、AV機材（マイク、スピーカ、Webカメラ等）、ネットワーク環境等をご自身でご準備下さい。）

対象：合意形成のプロセスや場のデザインにかかわる事業者・地域・自治体・市民の方々、環境政策における合意形成のアプローチや方法論を必要とするファシリテーター・NPO・当事者の方々、合意形成に関する教育や人材育成に携わっている教育機関・社会的企業・国際機関の方々、初等中等教育における特別活動にかかわる教師・学校・地域・自治体・行政・団体・企業の方々、合意形成に関わる参加者同士のネットワークを構築したいの方々、など。

講師：坂野達郎、錦澤滋雄、豊田光世、高田知紀、猪原健弘

	①初回導入セッション	②「討議民主主義と合意形成」クラス		③「環境政策における合意形成」クラス		④「対話の場をデザインする」クラス		⑤「合意形成マネジメントの技術と戦略」クラス		⑥全体総括セッション
各セッションの講師	坂野達郎 錦澤滋雄 豊田光世 高田知紀 猪原健弘	(1) 坂野達郎 猪原健弘	(2) 坂野達郎 錦澤滋雄 猪原健弘	(1) 錦澤滋雄 猪原健弘	(2) 錦澤滋雄 豊田光世 猪原健弘	(1) 豊田光世 猪原健弘	(2) 豊田光世 高田知紀 猪原健弘	(1) 高田知紀 猪原健弘	(2) 高田知紀 坂野達郎 猪原健弘	坂野達郎 錦澤滋雄 豊田光世 高田知紀 猪原健弘
1. 「合意形成の制度・プロセス・デザイン・マネジメント」（総合）コース	10/7	10/14	10/21	10/28	11/4	11/18	11/25	12/2	12/9	12/16
番号：CB-2026-F-1 全10セッションの受講料：44,000円（税込）										
2. 「合意形成の制度化とトランジション・マネジメント」コース	10/7	10/14	10/21	●	●	●	●	●	●	12/16
番号：CB-2026-F-2 全4セッションの受講料：18,700円（税込）										
3. 「合意形成のアプローチ選択とプロセス設計」コース	10/7	10/14	10/21	10/28	11/4	●	●	●	●	12/16
番号：CB-2026-F-3 全6セッションの受講料：27,500円（税込）										
4. 「合意形成における納得と対話の場のデザイン」コース	10/7	10/14	10/21	10/28	11/4	11/18	11/25	●	●	12/16
番号：CB-2026-F-4 全8セッションの受講料：36,300円（税込）										
②、③、④、⑤の4クラスの中から選んで受講		10/14	10/21	10/28	11/4	11/18	11/25	12/2	12/9	
		番号：CB-2026-F-5 全2セッションの受講料：9,900円（税込）		番号：CB-2026-F-6 全2セッションの受講料：9,900円（税込）		番号：CB-2026-F-7 全2セッションの受講料：9,900円（税込）		番号：CB-2026-F-8 全2セッションの受講料：9,900円（税込）		
②、③、④、⑤の4クラスの各セッションのタイトル		②(1) 無作為抽出市民による討議：社会実験から制度化の動向	②(2) トランジション・マネジメントと合意形成	③(1) 環境アセスメントと合意形成	③(2) 再生可能エネルギーにかかわる環境紛争と合意形成	④(1) 合意形成のレジティマシー	④(2) 人びとが語り始める場をひらく	⑤(1) 合意形成マネジメントの技術	⑤(2) 合意形成マネジメントの戦略	

「合意形成学」セミナー各コース・クラス・セッションのねらいと概要

1. 「合意形成の制度・プロセス・デザイン・マネジメント」(総合)コース(セッション1~10)

合意形成にはさまざまな視点が必要です。この「合意形成学」セミナーでは、「合意とは何か」、「合意形成とは何か」、「合意形成のためには何をすればいいのか」などの問いに対して受講生それぞれが自身の考えを手に入れることを目標に、合意形成のためのさまざまな視点を学びます。合意がどこで形成されるのか(世界・国家、地域、自治体、場)、合意で何が形成されるのか(制度、政策、プロセス、納得)、合意をどうやって形成するのか(制度、アセスメント、フレーム、ファシリテーション、デザイン、マネジメント、技術、戦略)について、視点を広範・グローバルなものから精緻・ローカルなものへと移動させながら、全10セッションを進めます。理念、理論、方法、技術、戦略、事例、実践、体験を通じて、合意形成についての広く深い理解を促します。

2. 「合意形成の制度化とトランジション・マネジメント」コース(セッション1~3, 10)

合意形成のさまざまな視点を①初回導入セッションでつかんだ後、合意形成の制度化とトランジション・マネジメントをテーマに、世界・国家、制度、理念・理論など、合意形成の広範・グローバルな視点について学びます。⑥全体総括セッションでは、合意形成の広範・グローバルな視点が、他のさまざまな視点とどう関係するかをセミナー参加者全体で討論します。

3. 「合意形成のアプローチ選択とプロセス設計」コース(セッション1~5, 10)

合意形成の広範・グローバルな視点からはじめ、地域や自治体、アプローチ選択やプロセス設計、アセスメントなど、リージョナルな視点や具体的な方法論に視線を移します。①初回導入セッションで合意形成のさまざまな視点の見取り図を学び、⑥全体総括セッションで、講師と受講生の間、および、受講生同士の意見交換に参加します。

4. 「合意形成における納得と対話の場のデザイン」コース(セッション1~7, 10)

広範・グローバルな視点からはじめ、リージョナルな視点を経て、さらに、精緻・ローカルな視点を得るために、合意形成における納得と対話の場のデザインを学びます。①初回導入セッションで俯瞰できる合意形成のさまざまな視点と、セッションでの学びを生かして、グループディスカッションやワークの実践・体験に取り組みます。⑥全体総括セッションでも実践・体験の成果を活かしてください。

① 初回導入セッション(セッション1)

「合意形成学」セミナー全体についてのガイダンスを行います。講師全員が参加して、セミナー全体のねらい、合意形成の複数の視点、各回クラスの概要を解説します。講師および受講生の間の交流の機会も設けます。

② 「討議民主主義と合意形成」クラス

無作為抽出の政治への活用は、古代ギリシャのソートションという制度にまでさかのぼれます。それが、1970年代になって復活し、近年様々な国で制度化が進んできています。気候変動市民会議は、同手法の応用例として注目されています。G.Smith(2009)は、無作為抽出市民による討議の場を組み込んだ討議民主主義手法をミニパブリックス型と総称しています。ミニパブリックスというアイデアは、それまで理論的関心の対象でしかなかった討議民主主義論、いかに制度化して実現するかという実践的関心の対象に変貌させました。ここでは、ミニパブリックスを活用した討議手法について、代表的手法である討議型世論調査を中心に、その手法の特徴、制度化に向けた課題について考えます。

(1) 無作為抽出市民による討議: 社会実験から制度化の動向(セッション2)

ミニパブリックス型の手法は、第一に、一人一票の投票権を持った有権者によって選ばれた代表者グループよりも無作為抽出市民のほうが代表性が高いこと、第二に、このように選出された市民による討議の場は、討議論理に基づいたコミュニケーションを実現しやすいという二つの前提に基づいています。これらの前提は、先験的に保証されるものではありませんが、適切な手続きに基づいて運用されれば実現することが、研究や実践の中からわかってきています。ここでは、討議民主主義が提唱された歴史的、理論的背景を概説し、ミニパブリックス型の手法が討議民主主義実現において果たす役割、同手法の制度化が進みつつある現状について紹介します。

(2) トランジション・マネジメントと合意形成(セッション3)

科学技術のイノベーションが制度化された現代の社会においては、人々は一生の間に科学技術の発達がもたらす大きな社会変革を経験することになります。科学技術は、行動の可能領域を拡大するので、倫理的判断未定の行動領域が拡大することになります。その影響は、地域や社会階層の境界を越え、将来世代にまで及ぶようになっています。このように、科学技術の影響が及ぶ範囲は、空間的、社会的、時間的に拡大し、複雑化するなかで、不確実性に対応するための手法の一つにトランジション・マネジメントがあります。トランジション・マネジメントでは、無作為抽出市民の役割を明確に論じていません。反対に、ミニパブリックスでは、超長期の不確実問題にどう対処するのかが明確に議論がなされていません。この回では、両者の関係について考察し、両者を相補的に活用する方法について考えます。

③ 「環境政策における合意形成」クラス

持続可能社会の実現に向けてさまざまな環境政策が立案・実行されています。これらは主に国や自治体を中心になって進められますが、住民、企業、NPOなどの多様なステークホルダーが関与することになります。このクラスでは、市民の理解や関与が不可欠となる環境政策やインフラ事業について、環境アセスメントによる環境配慮の仕組み、再生可能エネルギー事業を題材とした合意形成や環境紛争解決のための方法論について考えます。

(1) 環境アセスメントと合意形成(セッション4)

本セッションでは、まず行政の意思決定に市民参加が必要とされるようになった背景、そこでの社会的な合意形成の意義についてふれます。その上で、社会インフラ等の大規模な開発事業に適用される環境アセスメントを題材に、アセスメント手続きにおけるコミュニケーションの方法、説明会における周知の仕方、複数案検討の方法、合意形成の観点からみたアセスメントの課題について具体事例を交えて解説します。

(2) 再生可能エネルギーにかかわる環境紛争と合意形成(セッション5)

本セッションでは、脱炭素社会を目指すなかで直面する再生可能エネルギー事業の迷惑施設問題をとりあげて、その実態と合意形成に向けた方策を考えます。風力と太陽光発電による環境紛争について、主な争点とその発生要因、事業の受容性に及ぼす要因について実地調査に基づく知見を紹介します。合意形成に向けた国や自治体の取り組みとして、条例やゾーニングなどの環境配慮制度、地域便益を創出する方策など、地域と共生しながら再生可能エネルギーを導入していく合意形成のあり方を解説します。

④ 「対話の場をデザインする」クラス

「よい話し合いの場」とは、いかに設計しうろのか。合意形成を「さまざまな意見から新たな選択肢を生み出すクリエイティブな対話」と捉え、プロセスデザインの基本的な考え方をグループディスカッションやワークを通して学びます。

(1) 合意形成のレジティマシー(セッション6)

レジティマシーとは、社会的正当性、理にかなっていることを指します。話し合いの場のレジティマシーは、参加者の納得や満足を生み出す源泉であり、合意形成のプロセスデザインにおいて核となる価値です。しかし、レジティマシーを損なうリスクは、話し合いのさまざまなステージにおいて生じます。いくつかの場面を想定し、レジティマシーが損なわれない公正で創造的な対話の場のデザインについて、ディスカッションやワークを通して考えます。

(2) 人びとが語り始める場をひらく(セッション7)

話し合いの場を設定しただけで、誰も何も話さない。そういう経験をしたことがある人は少なくないでしょう。せっかく集まった人たちが、テーマについて考え、語り始めるようになるためには、どのような場づくりの工夫が必要でしょうか。講師が開発している声を引き出す話し合いの手法を体験し、人びとが語り始める対話の場のデザインについて考えます。

⑤ 「合意形成マネジメントの技術と戦略」クラス

本クラスでは、不特定多数のステークホルダーが存在する社会的合意形成の技術および戦略について、講師の従事した事例をもとに解説しながら、受講者どうしのディスカッションとともに考察を深めます。

(1) 合意形成マネジメントの技術(セッション8)

合意形成プロセスをマネジメントするうえで重要な考えは、意見の背後にある理由としてのインタレストであり、さらにインタレストが形成されるに至るまでのステークホルダー個々の来歴です。本セッションでは、合意形成マネジメントの重要な技術として、インタレスト分析のフレーム、話し合いの場のデザイン、ファシリテーションのポイントなどについて解説します。

(2) 合意形成マネジメントの戦略(セッション9)

合意形成は、対立構造が顕在化する前から、情報を収集し、ステークホルダーがコミュニケーションをはかり、合意できる提案をつくりあげていく姿勢が肝要です。本セッションでは、主に講師が従事した地域づくりや環境保全、社会基盤整備事業の現場における実践事例をみながら、合意形成プロセスを適切にマネジメントするうえでの戦略について解説します。

⑥ 全体総括セッション(セッション10)

セミナーを通じて学んだ複数の視点を生かして、合意とは何か、合意形成とは何かについて、セミナー参加者全体で検討します。講師と受講生の間、そして、受講生同士で意見交換を行います。